

京都女子大学法学研究科の案内（2026 年度）

専攻主任，松塚晋輔

法学研究科の紹介

本研究科の人材養成・教育研究上の目的を踏まえつつ、本研究科では、公務員職、自治行政、企業法務、国際機関さらにはパラリーガルの領域において高い知見を持つ人材を育成するために、それらの領域に進む人材に対応した履修モデルを用意しています。それらの履修モデルで学修を進める法的基礎学力を有するとともに、ジェンダー視点やグローバル基準としての人権理解に強い関心を有する人材を求めます。

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/graduateschool/hogaku/hogaku.html>

人権論総論，ジェンダー法総論が必修で，法学特別演習が毎セメスターあって，演習での指導を受けながら修士論文を完成させます。

本研究科は特に女性の法問題を女性同士で学ぶことができる場です。現在 5 名の院生が切磋琢磨しています。

本研究科は教員の一方的なレクチャーではなく、学生のニーズに沿った授業も設定できます。

例えば、公務員試験、行政書士試験などを受験希望者のために、試験問題に対応する課題や授業を展開するものがあります。数人の少人数制です。教員と授業内容を組み立てていくこともありえます。ただし、試験科目すべてに対応はできませんので、ご注意ください。学内の受験希望者はまずは法学研究科教員や専攻主任と相談してください。

法科大学院進学希望者についても、試験に対応する授業を展開する用意があります。ご関心ある方はぜひ事前にご相談ください。ただし、試験科目すべてに対応はできませんので、ご注意ください。

社会人の方は、夕方開講、土曜開講などフレキシブルに対応できるでしょう。実際、勤めながら本大学院で学んだ社会人の方がいます。授業実施については、平日 6 講時（18 時 10 分～19 時 40 分）および土曜日開講を当てて実施できます。入学試験では、社会経験や研究計画書などを重視した社会人選考を実施します。教員との相談で授業日時などをフレキシブルに設定していきます。長期履修制度もあります。ご一考ください。

修士論文タイトル例

修士課程では修士論文を完成させることが重要かつ最後の課題です。従来の修士論文のタイトルとしては、

日本における外国人労働者の受入れ制度に関する法的研究～外国人技能実習制度の検討を中心に～

忘れられる権利

家事時間の男女格差の解消—男性の育児休業取得に着目して—

有人サブオービタル旅客運送に関する航空・宇宙法上の考察

墓地と行政—周辺住民の精神的苦痛との関連で—

高度情報化社会と犯罪形態の変化について

日本の労働に関する一考察—ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて—

同性カップルの生きやすい社会とは—パートナーシップ制度を中心に—

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/graduateschool/hogaku/hogaku.html>

自分の関心をもとに、教員と相談して、テーマを設定します。

想定進路

進路として、公務員、民間企業への就職があります。実際、院生には、国家公務員一般職、国税専門官になった方がいます。その他、想定進路として、NPO…

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/graduateschool/hogaku/hogaku.html>

国家公務員総合職もご一考ください。これは修士修了レベルの試験制度です。5択問題は一般職試験より難易度がやや高いです。また総合政策論文も課されます。修士課程修了見込みのものに受験資格があります。挑戦する価値が十分あります。

学内推薦選抜（学生募集要項 25 頁）

京女生の学内推薦は、研究計画書と教員による推薦状が必要です。

一般選抜については受験資格（学生募集要項 3 頁）

- (1) 大学を卒業した者、または 2025 年 3 月卒業見込の者。
- (3) 外国において学校教育における 16 年の課程を修了した者、または 2025 年 3 月までに修了見込の者。
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が 4 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者または 2025 年 3 月までに修了見込の者。

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/nyushi/rhnb3000000032yi-att/boogco0000009ojq.pdf>